

それでもボートピアに反対するわけ No.4

ホームページ <http://www.geocities.jp/child700/index.htm>

ボートピアというギャンブル施設

全国のボートレースを大型スクリーンの前で観戦し朝から晩までギャンブルする場所全国各地で反対され、金沢市、白山市、羽咋市、かほく市、宝達志水町などをはじめ石川県内各地でも住民や首長の反対で阻止されています。

ボートピア誘致計画がストップするには、1 地元の反対、2 議会の反対、3 町長の反対、4 建設推進業者の撤退、そして5 国土交通省の不認可、のどれか一つでも満たせば達成。これらの目標達成の全てに関係しているのは、地元津幡町住民の反対署名。

舟橋地区におけるボートピア建設説明会の中で、ボートピア建設の賛否を問う採決を取ったところ、全世帯数125で出席は41。そのうち36（地権者25？）の賛成によって強引に承認されてしまいました。これが「地元同意」でしょうか？

近くには加茂、能瀬、庄、緑が丘もあります。

平成18年度津幡町予算案、112億8千万円。年間売上げ24億円の1%2400万円が町に入るとするのは甘い試算。金沢競馬も赤字で存続が危ぶまれています。インターネットで買える時代に続かないよ。住民の生活を脅かすボートピア施設。なぜ町も議員も急ぐのですか。1%の環境整備費を町はあてにしていますが、環境整備費はこの他に、原発とか産廃、人が迷惑をこうむる代償費ですよ。

住民不在のまま進む、津幡町の場外舟券売場（ボートピア）誘致計画。

津幡町議会にボートピア誘致の白紙撤回を求めて8448筆の署名と8団体の請願を提出。昨年の12月津幡町議会で11対5で不採択に。

ボートピア賛成議員：多賀吉一、向 正則、鈴木準一、南田孝是、谷口正一、高森外幸、 山崎太市、洲崎正昭、長谷川恵子、河上孝夫、徳田 進、中田健二 ボートピア反対議員：宮本眞晴、古坂 勇、納口清隆、道下政博、石本喜一
--

2月22日、津幡町有権者の過半数を超える14340筆、町外と20歳未満の方からの5003筆の署名を添えて、19団体より23の請願を提出、町長には4つの要望書を提出。それでも津幡町、町議会は反対の声を無視するのでしょうか！

ギャンブルで得た収益で子どもに海外研修させることって素晴らしいことなんですか。その陰で、家庭崩壊もある、泣いている家族もいる。

子どもたちが安心して暮らせる環境は、子どもたち自らの手では守れない、それはこの地域に住む私たち大人が責任を持って守らなければならないこと。

子どもたちは自ら学びとる。親の背中から、地域の大人から、町から、自然から。

ボートピア誘致に関しては「地元の賛成」「議会の賛意」「町長の賛意」の3要件が必要ですが、建設予定地の舟橋区長たちは、2005年5月地域住民にボートピアがギャンブル場であるという十分な説明をしないで過半数の「委任状」を取り付け、それをもって住民の多数が賛成したとして、一年たった2006年6月議会に誘致の請願を提出。津幡町議会は、津幡町民への説明と同意なきまま、その請願を可決しました。私たちは9月になってその事を知り、10月23日、713人の連名で、町長に「慎重に検討してほしい」旨、申し入

れました。しかし、その場では「反対の声をふまえ、総合的に判断する」と言明しながら、そのわずか2日後に突然「同意」を表明しました。私たちは、わずか一カ月間で約8000筆（有権者28000人の4分の一）の有権者署名をもって、町内8団体とともに、昨年12月に再び白紙撤回を求める請願をしたのですが、議会および町長はそれをも無視し、私たちの要望を否決しました。

ボートピアは全国どこでも、利権にかかわらない住民であれば9割が反対するギャンブル場です。私たちは、署名運動を展開し、この事実を知っていただく努力を続けていきます。どうぞ、活動にご協力いただきますようお願いいたします。ホームページに詳しい経緯を書いています。どうぞご覧ください。（掲示板は中断中です）

ホームページ掲示板への投稿記事から：100%津幡っ子

私は生まれてからずっと津幡に住んでいます。ボートピア建設に関して、私は反対です。私が反対する大きな理由は、町長をはじめとする津幡町の姿勢、建設を決定するまでの進め方に納得がいけないからです。

ボートピア建設について、町の広報誌でも、700人委員会の皆さんの活動を報道したニュースでも、町はとにかく「財政のため」という言葉を繰り返しています。では、なぜそこまでこれからの津幡町にとって重要だと言うボートピア建設について、建設予定地で「地元」とされる舟橋地区だけへの説明、舟橋地区の半数にあたる世帯の署名だけで決めてしまうのでしょうか？公開質問状への回答から何うに、国土交通省の申請する手続きのために必要な最低限の同意さえ得られればよし、という判断だったのでしょうか？

実際、町の広報誌の記事、あるいは700人委員会の皆さんの活動がマスコミで報道されて初めて、ボートピアのことやボートピア建設が決まったことを知った町民がほとんどだと思われます。私も町の広報誌を見て知りました。私はその時、「決定」という記事と並んで「ボートピアとは舟券売り場のことです」という説明書きがあったことに、「決める前に町民へその説明をすることが先じゃないの？」と疑問を抱きました。競艇や競馬をしたことがない私は、公営の競技とはいえ、勝敗によって即その場で儲ける・掏られるということが生じる賭け事の場所であることに不安を感じています。そして、私のように「ボートピア」を知らない町民が多い中、建設計画があることや、施設の内容などについても十分な説明もなく、周知もされていないまま決定に至った町の動きがさらに不安にさせました。そして何より、建設中止の要望書を受け、「反対意見があることを今日初めて知った」はずの村町長が、「賛成・反対の意見もふまえ、総合的に判断する」と回答したにも関わらず、その2日後に建設容認を公表したことが、私の町の姿勢に対する不満を爆発させました。全く反対意見を受け入れようとしなのはなぜなのか。今の津幡町のやり方は、反対意見に対して検討すると答えながら、何とか逃げ切ろう、何

とか推し進めてやろうとしているようにしか見えないのです。現に今の町長をはじめとする町の対応を伺っていると、決定・建設着手を必要以上に急いでいるようにも見えます。もし津幡にボートピアが建っても、多くの人が出入りする主要都市のボートピアと同じように運営出来るのでしょうか。「ボートピア川崎」の視察報告書には、「近年はモーターボート競走の売上が減少傾向にあることから運営そのものが厳しく」ともありますが、本当に財政の支えとしてボートピアに頼ってよいものなのでしょうか。不安でなりません。競艇が好きか嫌いか、ボートピアを利用するか否かという利用者としての目線ではなく、今ボートピアが建とうとしている町に住んでいる住民の立場として、ボートピアがこれからもずっと住んでいくこの町にどのような変化をもたらすのか、本当に津幡町にボートピアが必要であるかなどを考えたうえで、私は反対という答えを出しました。

私がこれまでずっと住んできて、これからも住み続けたいと思っている大好きな津幡町。それ故に、今回のボートピア建設に関しての村町長をはじめとする津幡町の一連の動きに、悲しい思いでいっぱいです。財政のためと強く主張されて作った施設がさらに町の財政を圧迫させる結果にならないか、700人委員会の方々が懸念しているようなトラブル等が起きない（防げる）のかなど、津幡町議会の方には今一度慎重に検討していただきたいです。また、町民全員が改めて津幡町のことに関心を持って見つめ直し考えなければいけないことだと思いますし、近隣の市や町の方々にも津幡町がボートピアを建てる計画を進めようとしていること、それに対し今このような反対の動きもあるということをもっと知ってもらいたいです。ボートピアに関する勉強会を開かれたり、寒い中でも街頭ウォークなどで呼びかけるなど、精力的にアクションを起こしていってほしい。700人委員会の皆さんをこれからも応援します。また、反対の意見に対して町が誠意を持って対応してくれることを願っています。

3月6日からの町議会を注目ください！！

6日本会議、7日～9日委員会、12日全員協議会、13日本会